様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　６月　３日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：１９３２００３６
研究課題名（和文）　和漢聯句の研究

研究課題名（英文）　A STUDY OF WAKANRENKU

研究代表者
大谷　雅夫（OTANI MASAO）
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80152172

研究成果の概要（和文）：　室町時代の和漢聯句作品を広く収集し、それらを研究分担者ほか研究会参加者が分担して翻字し、『室町前期和漢聯句資料集』(2008年3月)、『室町後期和漢聯句資料集』(2010年3月）の二冊の資料集を臨川書店より刊行した。また、その中の二つの和漢聯句百韻を研究会において会読した上で、詳細な注釈を作成してそれを『良基・絶海・義満等一座和漢聯句譯注』(臨川書店、2009年3月）および『看聞日記紙背和漢聯句譯注』(臨川書店、2011年2月）として出版した。

研究成果の概要（英文）：　During the study period, first, we gathered the Wakanrengu works widely, and the members of the research project as well as some members of the research society took charge of the reprinting. As the result we published "*Wakanrengu works collection: Early part of Muromachi Period*" (Rinsen Books, Mar. 2008) and "*Wakanrengu works collection: Latter part of Muromachi Period*" (Rinsen Books, Mar. 2010). Second, we selected two representative Wakanhyakuin (100 sentences long pome) works to read and discuss at the monthly research meeting. Based on the discussion, we annotated those two works and published "*Annotation for the Wakanrengu by Yoshimoto, Zekkai, Yoshimitsu etc.*" (Rinsen Books, Mar. 2009) and "*Annotation for Kanmon Nikki Diary Shihai Wakanrengu*" (Rinsen Books, Feb. 2011).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
２００８年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
２００９年度	2,800,000	840,000	3,640,000
２０１０年度	2,800,000	840,000	3,640,000
年度			
総　計	14,400,000	4,320,000	18,720,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：　和漢聯句、日本中世文学、連歌、俳諧、漢詩、和漢比較文学

１．研究開始当初の背景

和漢聯句は、室町時代から江戸時代初期にかけて、天皇、公家、連歌師、禅僧、儒者、医師などの当時の最高の知識人たちに楽しまれた文芸であり、大きな文学史的意味をもつものであるにもかかわらず、その研究は従来ほとんど全くと言ってよいほどになされてこなかった。大小数々の国文学史・日本文学史の記述にも、取り上げられることはなかった。和漢聯句は文学史研究の大きな盲点、

暗部となっていたと言ってよい。その理由は二つあろう。一つは、連歌も同様であるが、複数の人間が寄り集まって作る座の文芸は、個性の表現を尊ぶ近代的文学観からは尊重の対象とならなかったことである。連歌や和漢聯句は、その表現の世界は連想のままに自在に流れ、一つの作品としての個性はもちろん、全体としての意味すらもたない。西洋的な近代文学観からは完全に無視されて仕方ないものであったとも言えよう。

二つは、その連歌にもまして和漢聯句が顧みられなかった理由として、それが漢句を含むことがあろう。近代の国文学は、江戸時代以来の国学の影響を十分に脱することなく、漢的な要素を軽視、あるいは無視する傾向すらもち、ことに日本の漢文学には大きな関心を示さなかった。その結果、連歌は辛うじてその視野には入りえたものの、和漢聯句はまったくの盲点に置かれるという事情があったと考えられるのである。

２．研究の目的

「和漢聯句の研究」は、和漢聯句という忘れられた文芸を世に知らしめる研究となるとともに、連歌と和漢聯句との比較研究への道を開くものであり、ようやく活性化しはじめた連歌研究に新たなエネルギーを与えることになる。また、和漢聯句が卑俗、笑いをその表現の中に豊富に含みうることが、後の俳諧の成立につながるという見通しが立てられ、その研究は、俳諧研究にとっても、新たな視点を提供するものと期待される。

和漢聯句の製作には和漢にわたる幅広い教養を必要とするが、その一部は、韻書やその他の辞書によって供給されていたことが知られている。連衆がいかに中国の故事を知り、韻字をあやまたずに駆使したかを研究することは、辞書研究の成果を利用することが必須である。そして、和漢聯句を詳細に読解することは、逆に、韻書・辞書研究にとっても資するところ大であろうと考えられる。

あるいはさらに、和句と漢句が連ねられ、和漢の表現の世界が対照され、融和されるさまを研究することによって、日本人が中国文学からどのような表現を取り入れ、それをどのように消化したかが明らかになることがあろう。比較文学の立場における研究も、この「和漢聯句の研究」から導かれることが期待できる。

社会的なことまで言うならば、和漢聯句の楽しみは、公家と禅僧、連歌師、儒者たちの上流社会の交際の潤滑油としての役割を果たしていた。やや時代の下った一例をあげるならば、元禄時代の儒者伊藤仁斎は、時に公家の邸に招かれて論語の講釈をしたり、あるいは夜咄に興じたりしたことがその日記に窺えるが、そのような機会にも和漢聯句が楽しまれている。そうした例は、むろん室町時代には枚挙にいとまがない。和漢聯句資料を公刊し、それらの具体例を精査することは、当時の上流社会の研究に寄与するところが大きいと信じられる。

３．研究の方法

まず各地の図書館、文庫に散在している和漢聯句作品をひろく収集した。そもそも和漢聯句は、言い捨てのままにされて資料として残らなかったり、残っても断片的なものであったりしたので、研究するにもその資料を集めることに困難を極めるという事情があった。ややまとまった資料も、写本として残されているものであり、版本とされることは稀であった。そのような資料を集成し、公刊することが本研究の大きな目的であり、研究計画もその実行にむけて立てて、今日残されている和漢聯句資料のなるべく多数を、四年間の研究期間において収集し、翻刻し、公刊することを目標とした。

また、和漢聯句の本格的な研究がなされてこなかった理由の一つには、それが読解のたいへん難しいものであることが挙げられるので、本研究においては、国文学、国語学、中国文学・語学、中国哲学史の各分野の専門家の衆知をあつめて、能うかぎり多くの聯句作品を読解して、研究者および一般の読書人に提供することを目指した。当研究会では研究期間以前にすでに『京都大学蔵実隆自筆和漢聯句譯注』『文明十四年三月二十六日和漢聯句譯注』の二つの訳注を完成させていたので、それに引き続き、少なくとも二三点の和漢百韻の訳注を出版できるように、研究会での会読を継続することとした。

４．研究成果

室町時代の和漢聯句作品をひろく収集し、『室町前期和漢聯句資料集』(2008 年 3 月)、『室町後期和漢聯句資料集』(2010 年 3 月) の二冊の資料集として臨川書店より公刊した。また、その中の二つの和漢聯句百韻を研究会における議論を経て、『良基・絶海・義満等一座和漢聯句譯注』(臨川書店、2009 年 3 月) および『看聞日記紙背和漢聯句譯注』(臨川書店、2011 年 2 月) として出版した。これらの資料集、譯注は、今後の和漢聯句研究の礎石となるにたるものであろう。また、連歌研究、俳諧研究、また中世文学全体、さらには中世後期の社会史の研究にも資するところが大であろう。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

①<u>楊　昆鵬</u>、和漢聯句における瀟湘八景の受容、

和漢比較文学、査読有、44 号、2010、85-100pp
②楊　昆鵬、和漢聯句における恋の素材、国語国文、査読有、77 巻、10 号、2008、19-36pp
③深沢　眞二、和漢聯句から和漢俳諧へ－芭蕉と素堂と「和漢」、国文学：解釈と鑑賞、査読有、73 巻、10 号、2008、28-36pp
④深沢　眞二、書評　京都大学国文学研究室・中国文学研究室編『京都大学蔵／実隆自筆／和漢聯句譯注』『文明十四年／三月二十六日／漢和譯注』、和漢比較文学、査読有、40 号、2008、87-95pp

〔学会発表〕（計２件）
①大谷　雅夫「和漢聯句の楽しみ」東京俳文学会、2010 年 12 月 18 日、青山学院大学、東京都
②楊　昆鵬「和漢聯句にみえる友情の連想」俳文学会全国大会、2010 年 10 月 16 日、四国大学、徳島県

〔図書〕（計４件）
①大谷　雅夫『看聞日記紙背和漢聯句譯注』臨川書店、2011 年 2 月、249p
②大谷　雅夫『室町後期和漢聯句作品集成』臨川書店、2010 年 3 月、362p
③大谷　雅夫『良基・絶海・義満等一座和漢聯句譯注』臨川書店、2009 年 3 月、250p
④大谷　雅夫『室町前期和漢聯句作品集成』臨川書店、2008 年 3 月 325p

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

６．研究組織
(1)研究代表者
大谷　雅夫（OTANI MASAO）
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80152172

(2)研究分担者
川合　康三（KAWAI KOZO）
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40108965
宇佐美　文理（USAMI BUNRI）
京都大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：70232808
大槻　信（OTSUKI MAKOTO）
京都大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：60291994
伊藤　伸江（ITO NOBUE）
愛知県立大学・文学部・教授
研究者番号：30259311

(3)連携研究者
金光　桂子（KANAMITU KEIKO）
京都大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：30326243
緑川　英樹（MIDORIKAWA HIDEKI）
京都大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：30382245
森　真理子（MORI MARIKO）
京都大学・国際交流センター・教授
研究者番号：30230080
齋藤　茂（SAITO SHIGERU）
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：30134430
大谷　俊太（OTANI SYUNTA）
京都女子大学・文学部・教授
研究者番号：60185296
深沢　眞二（HUKASAWA SINJI）
和光大学・表現学部・教授
研究者番号：80218875
楊　昆鵬（YO KONHO）
京都大学・招聘外国人学者
愛甲　弘志（AIKO HIROSI）
京都女子大学・文学部・教授
研究者番号：60150893
乾　源俊（INUI MOTOTOSHI）
大谷大学・文学部・教授
研究者番号：00203216
浅見　洋二（ASAMI YOJI）
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：70184158
中本　大（NAKAMOTO DAI）
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：70273555
神作　研一（KANSAKU KENNICHI）
国文学研究資料館・准教授
研究者番号：30267893
長谷川　千尋（HASEGAWA CHIHIRO）
北海道大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：90431296
中島　貴奈（MAKAJIMA TAKANA）
長崎大学・教育学部・准教授
研究者番号：10380809

(4)研究協力者
日下　幸男（KUSAKA YUKIO）
龍谷大学・文学部・教授
原田　直枝（HARADA NAOE）
南山大学・総合政策学科・准教授
小山　順子（KOYAMA JYUNKO）
天理大学・国文学国語学科・講師
福井　辰彦（FUKUI TATSUHIKO）
立命館大学・文学部・講師
稲垣　裕史（INAGAKI HIROSHI）

立命館大学・文学部・非常勤講師
伊崎　孝幸（IZAKI TAKAYUKI）
京都大学・文学研究科・非常勤講師
竹島　一希（TAKESIMA KAZUKI）
京都大学・文学研究科・聴講生
中村　健史（NAKAMURA TAKESHI）
京都大学・文学研究科・非常勤講師
好川　聡（YOSIKAWA SATOSHI）
岐阜大学・教育学部・准教授
橋本　正俊（HASHIMOTO MASATOSHI）
摂南大学・文学部・教授
二宮　美那子（NINOMIYA MINAKO）
京都大学・文学研究科・教務補佐員
檜垣　泰代（HIGAKI YASUKO）
京都女子大学・研修員
川崎　佐知子（KAWASAKI SACHIKO）
立命館大学・非常勤講師
有松　遼一（ARIMATU RYOICHI）
京都大学・博士後期課程
畑中　さやか（HATANAKA SAYAKA）
奈良女子大学・博士後期課程
山田　理恵（YAMADA RIE）
大阪大学・博士課程
本多　潤子（HONDA JYUNKO）
立命館大学・博士後期課程
大山　和哉（OOYAMA KAZUYA）
京都大学・博士後期課程